

平成 27 年度 東京都内湾水生生物調査 8 月稚魚調査 速報

●実施状況

平成 27 年 8 月 28 日に稚魚調査を実施した。天気は曇りで、気温 22.8～24.6℃、北東のち北の風 2.0～3.5m で海は平穏だった。当日は中潮で、9 時 54 分干潮、16 時 41 分満潮で、上げ潮時に調査を実施した（東京都港湾局のデータ）。各地点の概況を下表に示す。

各調査地点では、6 月調査の際確認されたボラの稚魚は確認されなかったが、例年夏季を中心に確認されている、イワシ目のサッパやフグ目のギマの稚魚が確認された。

2015/8/28	城南大橋	お台場海浜公園	葛西人工渚
作業時刻	10 : 50～11 : 30	12 : 30～13 : 00	14 : 20～14 : 50
水温 (°C)	24.6	24.4	24.0
塩分	16.2	23.1	26.5
透視度 (cm)	70	73	36
D0 (mg/L)	5.9	5.3	4.9
D0 飽和度 (%)	78	72	67
pH	8.0	8.2	8.3
水の臭気	弱カビ臭	無臭	無臭
備考			

注) 塩分、D0、pH の値は計器測定値。

●主な出現種等(速報なので、種名等は未確定です)

主な出現種等	城南大橋	お台場海浜公園	葛西人工渚
魚種 (多い順 ^注)	サッパ (m)	ヒメハゼ (c)	サッパ (m)
	ヒイラギ (m)	ビリンゴ (c)	マゴチ (+)
	ギマ (c)	マハゼ (+)	マハゼ (r)
	シロギス (+)	ウグイ属 (r)	ギマ (+)
	マゴチ (r)	サッパ (r)	コショウダイ (r)
魚類以外	ニホンイサザアミ (G)	アサリ (r)	ニホンイサザアミ (G)
	アラムシロガイ (r)		シラタエビ (c)
備考	大量のイサザアミが採取された。	定期船の船着場付近で大型のアカエイが多く確認された。	大量のイサザアミが採取された。

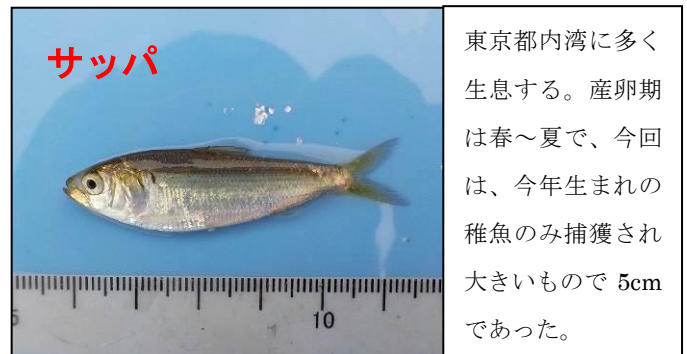
注) 表中の () 内の記号は大まかな個体数を表す。

G: 1000 個体以上、m: 100～1000 個体未満、c: 20～100 個体未満、+: 5～20 個体未満、r: 5 個体未満

城南大橋 採取試料



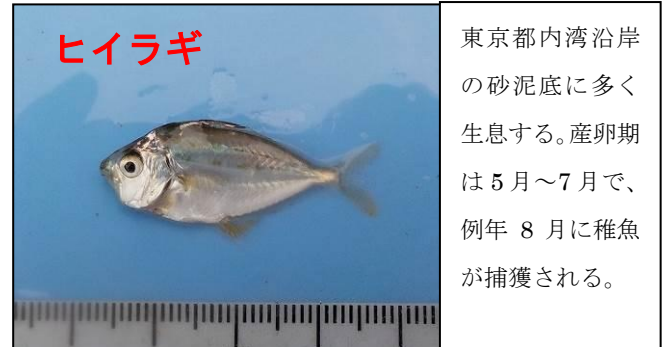
地曳網には、**大量のイサザアミ類**が採取された。これは魚類のエサとなる。このほかに、サッパ、シロギス、ヒイラギ、マゴチ、ギマ等の夏季に多く採取される稚魚が確認された。捕獲された稚魚の中では、サッパとヒイラギの稚魚が比較的多かった。



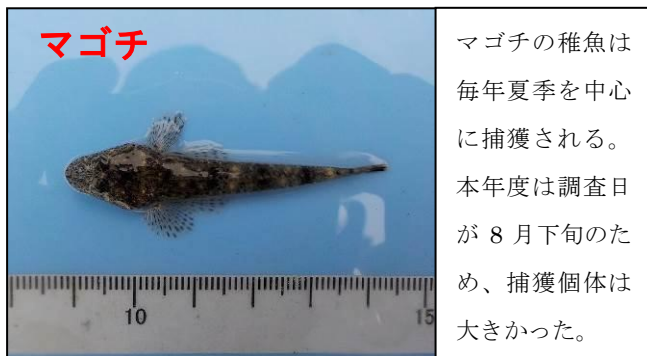
東京都内湾に多く生息する。産卵期は春～夏で、今回は、今年生まれの稚魚のみ捕獲され大きいもので 5cm であった。



東京湾の砂底に多く生息する。産卵期は7～9月が盛期で、夏に稚魚が出現する。本年度の個体はやや大きかった。



東京都内湾沿岸の砂泥底に多く生息する。産卵期は5月～7月で、例年8月に稚魚が捕獲される。



マゴチの稚魚は毎年夏季を中心に捕獲される。本年度は調査日が8月下旬のため、捕獲個体は大きかった。



フグ目ギマ科に属シカワハギと近縁である。産卵期は6～8月で、東京湾では例年確認される。

船上から見た調査地点の様子



地曳網の様子



お台場海浜公園 採取試料



ヒメハゼ、マハゼ、ビリンゴ等、主として干潟に生息するハゼ類が捕獲されたほか、河口域から淡水域に生息するウグイ属、サッパ、ギマ、クサフグ等が確認された。他の2調査地点と異なりイサザアミ類は確認されず、その他の生物としてはアサリが少量採取された。



ウグイ属
マルタの幼魚と思われる。若魚は東京湾の内湾汽水域で生活し、成魚は産卵期に多摩川等を遡上する。



マハゼ
6月調査で捕獲された個体と比較して、成長していない印象を受けた。密度過多による餌不足等の要因が考えられる。



ヒメハゼ
4月の調査では確認され、6月の調査時には確認されなかったが、今回再び確認された。



ビリンゴ
ビリンゴもマハゼ同様 6月調査時と同程度のサイズであったが、本種はマハゼほど大きく成長しない種である。



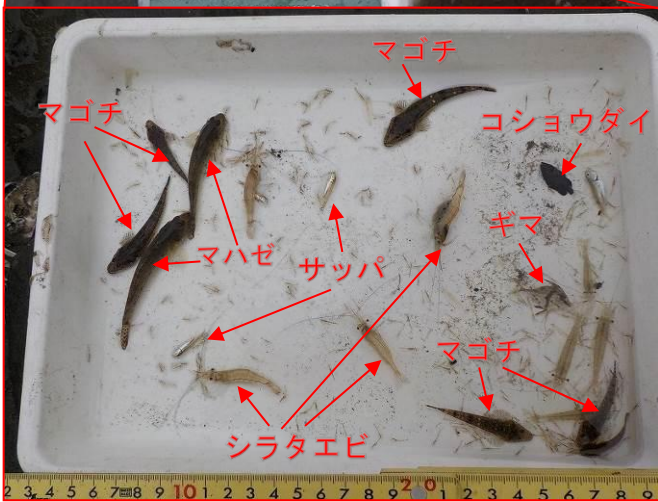
クサフグ
6月に葛西人工渚で捕獲されたクサフグは、全長1.5cm程度であったが、今回の個体は約6cmに成長していた。



アサリ
近年お台場海浜公園では、減少傾向にあるが、今回少量ではあるが、大型の個体が確認された。



葛西人工渚 採取試料 本年度過去2回の調査と同様イサザアミ類が多く捕獲され、その量は10kg以上であった。本年度はイサザアミの発生量が多く、上げ潮により、干潟域に集められたと思われる。稚魚はマゴチ、マハゼ、サツパ、コショウダイ、ギマ等が捕獲された。



東京湾奥部には少ない。産卵期は6~7月で、稚魚は潮流に乗って内湾に出現したものと推定される。過去の調査にも捕獲記録がある。



葛西人工渚で採取されたマハゼは比較的大型であった。イサザアミ等の餌生物が豊富であるためと推定される。



ギマは3箇所の調査地点のいずれにおいても採取されたが、葛西人工渚で採取された個体は比較的小型であった。

